

令和元年度第1回 新潟市子ども・子育て会議 会議概要

開催日時	令和元年5月30日（木）午後1時30分～午後3時30分
会場	市役所本館6階 講堂
出席委員	大竹委員、菊池貴子委員、菊地千以委員、小池委員、斎藤委員、佐藤委員、椎谷委員、志賀委員、長崎委員、長谷川雅朗委員、長谷川雅之委員、平澤委員、福士委員、政谷委員、横尾委員（出席15名、欠席4名）
事務局関係課出席者	こども未来部長、こども政策課長ほか同課より6名、こども家庭課長ほか同課より4名、保育課長ほか同課より3名、児童相談所より1名、教育総務課より1名、学校支援課より1名、地域教育推進課より1名、株式会社ジャパン総合研究所研究員1名
傍聴者	3名
内容	<p><b>【議事】</b></p> <p>（1）「（仮称）第2期新潟市子ども・子育て支援事業計画」の策定方針について</p> <p>○事務局より計画の策定方針について説明を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <p>（基本理念について）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念に関する記述（現計画書25ページ）は、「子どもの最善の利益の実現」をより前面に出すように記載してはどうか。</li> <li>・「にいがたらしさ」が表現できるとよい。</li> <li>・「地域」がより具体的にイメージできるような言葉が入るとよい。</li> <li>・会社・企業も含めた「社会」が支えるというイメージが入るとよい。</li> <li>・全市民が子どもに関わり、子どもを大切にすまちなだということを示すものがよい。</li> </ul> <p>（その他）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域には、ボランティア人材も豊富にあり、関心も高い一方、どういう形で関わればよいか分からないという声もある。人材の活用、効果的な情報発信をしていくべき。</li> <li>・現計画書の中に、「父親が育児に関わり・・・」というような記載があるが、父も母も同等に子育てを担うべきであり、性差などを感じさせる記載は見直すべき。</li> </ul> <p>（2）教育・保育及び地域子ども・子育て支援事業のニーズ量の推計方法について</p> <p>○事務局よりニーズ量の推計方法について説明を行いました。</p>

<p>内容</p>	<p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズ調査結果から算出する量の見込に対し、現計画の実績も加味して調整を行うのか。</li> <li>⇒まずは、ニーズ調査結果から国手引きに従い量の見込を算出するが、現計画を評価し4年間の実績と整合が図られるような調整を行うものもあると考えている。</li> <li>現計画では、中間見直しの際に数字のずれを修正した事業もあることから、その経過も踏まえ、実効性のある目標値が出せればよいと考えている。</li> <li>・計算で出てくる数字に縛られないようにしてほしい。実態を考慮した議論をするべき。</li> <li>・幼保無償化が始まると、教育・保育の量の見込の数字が大きく変わるのではないかと懸念している。</li> </ul> <p><b>(3) 新潟市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果のポイント・課題について</b></p> <p>○事務局よりニーズ調査のポイント及び課題について説明を行いました。</p> <p>○委員からは主に次の意見・質問がありました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢別のクロス集計結果が添付されていることを評価する。</li> <li>・就学前児童調査の問9において、無回答が50.8%となっているが、要因は？⇒後日確認</li> <li>・回答者別（父親／母親）のクロス集計結果については、父親の回答者数が少なく比較するに信頼できる数字でなくとも、回答の傾向はわかるはずなので、そのデータも出してほしい。</li> </ul> <p><b>(4) 新潟市子ども・子育て会議における部会及び審議・議決事項の取扱いについて</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子ども・子育て支援ネットワーク部会」において、市の保健師もオブザーバーとして入るとのことだが、子育て前の支援も大切なので、切れ目ない支援の観点から助産師などを入れてはどうか。</li> <li>⇒保健師に入ってもらったこととした趣旨はご指摘のとおり。</li> </ul>
-----------	---